

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	3470103676		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホーム よってきんさい本浦		
所在地 (電話番号)	広島市南区本浦町27-18 (電話) 082-508-2626		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7.2 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	新築/ <u>改築</u>
建物構造	木造モルタル 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 ~ 50,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,500 円	

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1		要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田村医院・吉崎整形外科・くらす歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「よってきんさい本浦」では、開所時より入居者一人ひとりが地域の中で心豊かに、その人らしく生活することを支える支援に取り組まれており、そのひとつとして町内の生き生きサロン(集会所)に入居者と職員が共に出かけて地域の人達と一緒に食事や娯楽を楽しみながら、交流を深められている。入居者の人達が地域に積極的に外出されることによって、地域の人達には事業所の役割と、認知症への理解が得られており、また、地域にお出かけすることによって、入居者のできることの発見がたくさんあり、これらを活かしながら本人が力を振り絞り自分らしく生きていくことを、みんなで支えられている。ホームの日常生活の場では、入居者同士の支え支えあう関係づくりと、入居者と職員がともに感謝の言葉を交わされている姿が随所に見られ、家族的な雰囲気が培われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題はなかったが、更なる向上を目指して本人の出来ることや思い、自主性を尊重し、本人本位に検討しながら、入居者の人達には不安とストレス、何もすることがない暮らしが招く「作られた障害」をなくして、その人らしく生きていく支援に取り組まれており、入居者の張りのある生活ぶりにつながっているようである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 事業所全体で自己評価には取り組んでおり、ミーティングや職員会議において、見落とし課題はないか、改善すべき課題はないかを検証し、検討している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、定期的に家族、地域の住民代表や民生委員の人達が参加して開催されており、事業所側からは運営状況や入居者の生活ぶり及び地域との交流等について説明し、地域との相互の理解を深められており、また、参加メンバーからも多くの意見や、要望等を得ながら改善事項があればミーティング等で検討し、改善につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族との面会時には、入居者の生活ぶりや連絡事項を伝え、入居者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告をしている。また、月に1回担当者が手紙で、例えば個別外出した時は個人別にその様子とホームの近況報告等をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、清掃行事等の地域行事に参加したり、月に1回地域の生き生きサロン(集会所)に入居者と職員が出かけて、地域の人達と一緒に食事をともにしたり、趣味を楽しんだりしながら支援と理解を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着したホームを目指すことをスローガンにして、入居者が安心してその人らしい生活を続けられるよう、家族、職員、地域住民と共に支えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月例の全事業所の管理者会議や、各事業所毎のミーティング及び日々の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った支援の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域団地の町内会に加入し、公園の清掃や夏祭りなどに参加している。また、町内の生き生きサロン(集会所)に入居者と職員が共に出かけて、地域の人達と一緒に食事や娯楽を楽しみながら交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で見出された課題については、職員同士で意見を出し合い改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町内会長、民生委員、家族代表、入居者等が参加して、定期的開催している。会議では事業所からの報告とともに、参加メンバーからの質問、意見を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口に対して、入居者の介護保険の変更や更新手続の機会等を捉えて、事業所の実情やサービスの取り組みを伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、入居者の生活ぶりや連絡事項を伝え、入居者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告をしている。また、月に1回、担当者が手紙で入居者の暮らしぶりや、個別外出した時は個人別にその様子や、ホーム内の近況報告を知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、ケアプラン作成時には出来るだけ入居者を交えて一緒に話し合い、思いや希望、不満を表せるように対応している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わるときは、引き継ぎの期間を十分に取り、また、新任職員にはベテランの職員が指導し、入居者の動揺を最少限に抑えるための対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとして、同法人内での合同研修の他、外部機関の研修にも積極的に参加し、伝達研修をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの主催で実施されている、地域の福祉・介護事業所との勉強会や情報交換会等に出席して、事業所外の人材の意見や経験を支援に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人や家族に事業所を見学してもらったり、短い時間でも遊びに来てもらったりしながら、本人や家族の不安を取り除き、安心して入居してサービスを受けられるように取り組んでいる。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者と共に過ごし、家事や行事の機会を通じて学び支えあう関係を作っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりがどんな思いを抱えているのかを把握するために、日常的に入居者と職員が出来るだけ1対1で向き合い、日々の会話の中で把握する努力がなされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者が出来ないこと(例えば食事をうまく口に運べないなど、それぞれにハンディを抱えている)をよく理解し、また、「もう少し運動させて欲しい」といった家族の要望なども十分織り込みながら、入居者に合った介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>年齢とともに変化する心身の状態を見極めながら、個々のケアプランを1ヶ月ごとに見直し、新しいものに作り変えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者は医療連携している医師や看護師から、できる限り入院せずホームでの生活を続けるための適切な医療と看護を受けている。また、家族の依頼により、必要の都度通院介助も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の協力医療機関からの往診の他、診療科目によっては、入居前のかかりつけ医から引き続き医療を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、ホームで重度化した時や看取り実施時の指針を家族に説明し、同意を得ている。また、状況の変化とともに、入居者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気ですべて接している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者を制止したり、急がせたりする言葉はなく柔軟な対応で、入居者の生活ペースに配慮し、入居者のペースでゆったりと暮らせるように支えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から配膳、片付けなどに入居者一人ひとりが参加できるように支援している。また、天気の良い日には庭にテーブルを並べ食事を楽しんだりしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は、毎日の入浴が可能であり、本人の希望やその日の状態にあわせながら柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は一日の生活の中で、家事や生け花、字の上手な方にはホワイトボードにメニューを書いてもらうなど、それぞれの役割を見つけ、分担しながら張り合いのある生活支援を送っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、近隣の公園や事業所周辺に散歩に出かけたり、スーパーで食材やおやつの買い物等を楽しんでいる。また、市内の劇場に出かけて芝居を楽しんだり、年2回家族の協力を得ながら温泉にも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	表玄関については日中の時間帯は施錠されていない。外出への希望には見守りで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。万が一の際には、近隣にも協力が得られるように運営推進会議でお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜など栄養バランスに気を配ったメニューを心がけ、また、水分摂取にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は五感刺激への配慮がなされており、共用スペースも花や絵などが飾られ、安らぎの場になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテーブルやベッドなど使い慣れたものが持ち込まれ、自宅で暮しているような環境を作っている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームよってきんさい本浦

評価年月日 平成21年 2月 15日

記入年月日 平成21年 2月 15日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 新谷 奈々

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開設当時より独自の理念を作っている。その1つに地域に密着したホームを目指すとかかっている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝の申し送り時に全員で朗読している。 理念に基づく様に意識して業務に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域サロンや公園掃除等に積極的に参加している。又、運営推進会議を利用し、事業所の理念を含めた話し合いの場をつくっている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時や顔を合わせた時は、必ずあいさつをしたり、お話しをする様にしている。近所の方も、よく声を掛けて下さる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	夏祭り、とんど、月1回の地域サロン、公園掃除等積極的に参加し、地域の方との交流をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議時などに相談等を受け、助言している。又、月1回の地域サロンで、予防体操の提案などをほう括支援センターと協力し考えている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年に2回自己評価を行い、不十分な点については、話し合いを行い、改善に向け取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に1回開催している。 地域の方の意見やアドバイスは貴重な意見と受け止め、サービス向上に活かしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	特にはつくっていないが、市主催の指導、研修に参加、取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修に参加している。必要な人には支援をしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々のケアの中でお互いに注意を払い防止に努めている。虐待はありません。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、費用又は、緊急時の対応等、細めに説明し、家族の疑問点もお聞きし、理解して頂いた上で、契約を結んでいる。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	日々のケアの中で、何でも言える環境を作り、意見や思いを聞く様にしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月請求書と一緒に1ヵ月の様子を手紙に書き、お知らせしている。又、面会時にもお伝えしたり、金銭ノートの確認をして頂き、印鑑を頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関には、苦情箱を設置している。又、御面会時には、話をする機会をもうけ、意見を聞く様にしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に2回自己評価、申告を書いてもらっている。又、日々の中でも声を掛け、話しやすい環境を作り、意見を聞く様にしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	外出、受診等、利用者に合わせ、勤務を調整している。職員とも話し合いを行い、理解してもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動等は、最小限におさえる様にしている。 新しい職員がなじめてから、異動するなど、ダメージを少なくする様配慮している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>プログラムを立て、社内勉強会を行っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>エリア事業所勉強会に積極的に参加し、交流を図り、向上につなげている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレス等がないか話をする様にしている。 又、忘年会、ビアガーデン等を開きリフレッシュの機会をつくっている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>自己目標の導入に依り各自の努力実績を把握し、各自の向上心を高めるよう努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入居前に面接を行い、思いなどを細かく聞くようにしている。又、利用後もかかわりを多く持ち、ゆっくりと話を聞く様にしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前面接で、御家族からも細かく話を聞く様にしてしている。又、入居後も面会等を利用し、細かく様子をお伝えしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族よりしっかりとお話を聞き、必要なサービスを見極め、他サービスとも連携し、支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	2～3日昼間あそびに来て頂き、職員ともコミュニケーションを取り、サービス利用を開始するなどしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	教えて頂く事も多くあり、その時は「ありがとう」の感謝の気持ちでお礼を言い、うれしい事があった時は、一緒に喜んだり、家族と思う心を持って接している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	一緒に支えていくという思いを持ち、面会時を利用し、しっかりお話をする様にしてしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	関係をふまえた上で、両方がよりよい関係でいられる様に間に入り、支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>墓参り、同窓会等に同行し、馴染みの関係継続している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>リビングの席は、相性を考え決めている。 又、ソファを2ヶ所設置しており、関わり合いが出来る様にしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>サービス利用が終了しても、様子をうかがいに行ったり、関係を立ち切れない様に他サービスとも連携している。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
1 一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々のケアの中でも、思いなどを聞く様にしている。又、1ヵ月に1回見直し時にしっかり希望や困っている事などはないか聞く様にしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居前に、バックグラウンドを細かく聞き、把握し、サービス利用している。又、利用後気づいた事は、細かく記入する様にしている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>バイタルチェック、食事摂取状況、排泄表、介護記録などで、心身状態等把握している。又アセスメントを細かく記入し、個々に合ったサービスにつなげるよう努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意見をしっかり聞く様にしている。 その上で、担当者会議（ケアマネ、管理者、ケース担当）で話し合いを行い、介護計画を作成している。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヶ月に1回見直しを行っている。状態変化時には、変更し、見直しを行い、状態を詳しく記入する様にしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活日誌に日々、一方的な記録にならない様に細かく記入している。特変があった場合には、赤線を引き分かりやすくし、情報を共有する様にしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて、他事業とも連携を図り、支援する様にしている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、町内会、中学生の職場体験、消防署の防災訓練等の協力を支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて地域ほう括支援センターと協力し、支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域支援センターと協働し、支援している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に希望をお聞きしかかりつけ医につないでいる。週1回往診する整形外科、耳鼻科、皮膚科、歯科医とも連携し、急変時の対応支援をしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医は、認知症を理解している。 往診時は、利用者の思いをしっかりと聞いて下さる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	単独の看護師の配置はないが運営全体では複数の看護師がいるので細かく対応支援している。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には1日1回は必ず様子を見に行ったり、必要であれば付き添いをしている。 又、病院内関係者とも、情報交換する様になっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>入居前に終末期の希望を聞く様にしている。 又、状態に合わせて話し合いを行い、方針を決めている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>家族にも、しっかり話しを行い、出来る事、出来ない事を明確にしている。かかりつけ医と協力し、週末期に取り組んでいる。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>家族や他事業所へ情報提供を行い、ダメージが少なくなる様に心掛けている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーや自尊心を傷つけない声かけを心掛けてケアを行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>おやつ時の飲み物の選択や買い物時の品物選びなど自己決定が出来る様に支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者のペースに合わせ、先走りのケアにならないように見守りを大切にしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望の店がある場合には、希望の店へ同行している。 又、2ヶ月に1回出張カットを利用し、散髪している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	切ったり、盛りつけ等、個々の出来る事を職員と一緒にやっている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	たばこは、決められた場所で喫煙して頂いている。夜間は、火災防止の為に控えて頂いている。病状等に配慮し可能な限り、晩しゃくしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排尿のパターンを把握し、自立に向けて、トイレ誘導、声かけを行っている。又、個々に合わせて、パット等使用している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日曜日以外は、毎日お湯をわかしている。入浴日を決めていたが、希望に合わせて入浴してもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼食後2時間程度、お昼寝が必要な方はして頂いている。温室、寝具等気持ちよく寝られる様配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	生花が得意な方には, 玄関に花を生けて頂いたり, 字の上手な方には, ホワイトボードメニューを書いて頂いたりと力を活かした役割を決めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理出来る方は, 御自分で管理して頂いている, 又, 預り金を家族より預かり, 買い物時には, なるべく自分で支払いをして頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	日常的にスーパーへ出掛けたり, 希望があれば清水劇場に芝居を見に出掛けたりしている。 又, 年2回温泉旅行にも出掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年2回温泉旅行に行っている。又, 花見や秋のバスツアーなどにも行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	自室にて, 子機を使用し, 電話して頂いている。又, ポストは近くにあり, 可能な限り, 自分で投かんして頂いている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも, 宿泊や食事が出る様にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	行政発行の拘束禁止の具体的な行為等を参考にし、理解を深め身体拘束をしない、させないケアに取り組んでる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員理解している。天気の良い日には、玄関のドアは開放している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士声を掛け合いながら、目線から落とさない様にしている。 夜間、歩行不安定の方には、ベッド下にセンサーマットを設置している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤等、経口による危険物等は、目の届かない所に保管しているが、居室内には個々の状態に応じた取り組みをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成している。年2回避難訓練を実施している。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	マニュアルを作成し、吸引器の使い方などの訓練をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回定期訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクマネジメントの勉強会を実施し対応に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、健康チェックをしている。 異変に気づいた際には、主治医、看護師に報告し、早期対応に努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	生活日誌に医療欄を作成しており、誰でも見られるようにしている。又、臨時薬が出た場合は、申し送りノートへ注意事項、薬の名前を記入し、分かりやすくしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	便秘がちな方には、毎朝牛乳を飲用して頂いている。 又、散歩や日常生活の中で運動を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、全員洗面所にてはみがきをして頂いている。 歩行が難しい方には、洗面器を持参し、その場で口腔ケアを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事、水分量を詳しく記入している。 又、摂取量の少ない利用者様には、バナナ、エンシュア やのどごしの良いもの(ヨーグルト、プリン等)を摂取して頂いている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザの予防接種を利用者職員とも受けている。常に手洗い、うがいを徹底している。又、マニュアルを作成している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器は乾燥機にかけ消毒している。まな板、台拭きは、毎日ハイターにつけ消毒している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、手作りの看板をかけている。天気の良い日には、気軽に入って頂ける様に玄関のドアを開けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には、季節の花を生けたり、リビングには、季節の壁画や作品を貼っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを2ヶ所設置しており、気の合った利用者同士会話を楽しんだり出来るよう配慮している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具やなじみの物を持ちこんで頂き、相談しながら居室作りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に換気をしている。又、芳香剤を各部屋に置いている。温度調節は温度計を見たり、職員が肌で感じ、配慮し、調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	民家改造の為段差はあるが、段差の前には、声掛けを行い、注意力を持って頂いたり、階段昇降は必ず付き添い、転倒防止をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々に合った出来る事を見つけ、一緒に行い、自立に向けた支援をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭には、畑を作っており、季節の野菜を植えている。又、テーブルとイスを設置して、天気の良い日には、外でお茶を飲んでいる。		